

- 31 見よ。わたしは——【主】のことば——自分の舌を操って、これがみことばだ、
と言う預言者たちの敵となる。
- 32 見よ。わたしは偽りの夢を預言する者たちの敵となる——【主】のことば——。
彼らは、偽りと自慢話をわたしの民に語って迷わせている。
わたしは彼らを遣わさず、彼らに命じもしなかった。彼らは、この民にとって何の
役にも立たない——【主】のことば。
- 33 この民、あるいは預言者が祭司が、『主の宣告とは何か』とあなたに尋ねたら、
あなたは彼らに言え。『あなたが、宣告とは何かと言うので、わたしはあなたがた
を捨てる——【主】のことば。』
- 34 預言者でも、祭司でも、民でも、【主】の宣告と言う者があれば、わたしはその者
とその家を罰する。」
- 35 あなたがたは互いに「【主】はどう答えられたか。【主】はどう語られたか」と
言うがよい。
- 36 しかし、【主】の宣告ということを二度と述べてはならない。その宣告自体がそれ
を言う人自身のことばであり、あなたがたが、生ける神、万軍の【主】、私たちの神
のことばを曲げることになるからだ。
- 37 「あの預言者たちにこう言え。『【主】はどう答えられたか。【主】はどう語られ
たか。
- 38 もし、あなたがたが【主】の宣告と言うなら、それに対して、【主】はこう言わ
れる。わたしはあなたがたに、主の宣告と言うなと言いつつ送ったのに、あなたがたは
【主】の宣告というこのことばを使っている。
- 39 それゆえ、見よ、わたしはあなたがたを全く忘れ、あなたがたとあなたがたの先祖
に与えたこの都を、あなたがたとともに、わたしの前から捨てて、
- 40 永遠の恥辱、忘れられることのない永遠の侮辱をあなたがたに与える。』」

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「にせ預言者のさばき②」

エレミヤ書講解-50 エレミヤ書23:23~40 他 小野寺望 牧師

【エレミヤ書 23章】

- 23 わたしは近くにいれば、神なのか。——【主】のことば——
遠くにいれば、神ではないのか。
- 24 人が隠れ場に身を隠したら、わたしはその人を見ることのできないのか。
——【主】のことば——
天にも地にも、わたしは満ちているではないか。——【主】のことば。
- 25 わたしの名によって偽りを預言する預言者たちが、『私は夢を見た。
夢を見た』と言うのを、わたしは聞いた。
- 26 いつまで、あの預言者たちの心に偽りの預言があるのか。心の偽りごとを語る
預言者たちのうちに。
- 27 彼らの先祖がバアルのゆえにわたしの名を忘れたように、彼らはそれぞれ自分
たちの夢を述べ、わたしの民にわたしの名を忘れさせようと、企んでいるのか。
- 28 夢を見た預言者は夢を語るがよい。しかし、わたしのことばを受けた者は、
わたしのことばを忠実に語らなければならない。
麦は藁と何の関わりがあるだろうか。——【主】のことば——
- 29 わたしのことばは火のようではないか——【主】のことば——。岩を砕く金槌の
ようではないか。
- 30 それゆえ、見よ——【主】のことば——。わたしは、互いにわたしのことばを
盗み合う預言者たちの敵となる。

(4ページへ続く)

◆ はじめに ～真のメッセージと偽りのメッセージ

1. 信仰に関する現代的テーマである。

- (1) スピリチュアル、占い、迷信、誤った聖書解釈など・・・
*教会に入り込む偽りの教師は、神の計画を阻害する者である。
- (2) 偽物を排除し、本物を見分ける目が必要である。
*私たちが放つ、「キリストを知る知識の香り」に混ぜ物は無いかな？
*私たちの重荷は何か？ それを担ってくださるお方は誰かな？

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神に従い、委ねる者へ「神の赦しを得よ」

*このメッセージは、神の重荷とならず、自らの重荷を委ねる幸いについて学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I 偶像に勝る遍在なる神 (23～24節)

1. 「近くにいれば神なのか・・・」 23節

- (1) 偶像の神：地域や聖所に結びつけられる。像が目に見え、陥りやすい。
- (2) まことの神：偶像を作らず、遍在の神。逆に不信者には遠く感じる。
- (3) まことの神は場所を超越（遍在）しており、共にいてくださる神である。
*遍在なる神が、「ここにいる」ことを民に示すご自身の栄光（シャカイナ・グローリー）
①イスラエルの民はいつしか関心を示さず、身近な偶像礼拝にひかれていった。
②また、契約の民を墮落させ、神の御心の妨害を企む悪魔のしわざでもある。

2. 「神は隠れ場の人を見ることができないのか」 24節

- (1) 人が隠れ場に身を隠しても、神はその人を見ることができる。
- (2) 神は場所に縛られず、すべてご存じである。例：アダムの墮落直後のやりとり
- (3) それは、「天にも地にも、わたしは満ちている」から。詩139：7～12
*誰も、神の御前から逃れることはできない。神の御手の中に安らぐことが肝要。

3. 遍在で全知なる神が真の預言者を遣わす

- (1) 神はにせ預言者を排除し、真の預言者を召し出して用いる。
- (2) 真の預言者と外見上よく似た、にせ預言者の違いを明かされる。
①本物の中に偽物が紛れていることは、今日にも通じる霊的教訓

II 真の預言者とにせ預言者の対比 (25～32)

1. 「夢」を語る者と「神のことば」を語る者：預言者の使命の確認 (25～27節)

- (1) 北王国にいた多くのにせ預言者は、バアルの預言者 (9～15、27節)
①先祖のにせ預言者たちはバアルの意思を語り、神のことばを語らない。
②今、自分たちの「夢」をもっともらしく語るにせ預言者たちも、また同様である。

2. 麦とわら (28節)

- (1) 真の預言者は麦のようで、にせの預言者はわらのようである。
- (2) 本物は役立つが、偽物はそうではない。
①麦（真の預言者のメッセージ）は人に栄養と活力を与える。
②わら（にせ預言者のメッセージ）は人の益にならない（動物の糧にはなる）

3. 本物は火であり金づち (29節)

- (1) 前者のメッセージは「火」のようであり、「金づち」のよう
*つまりは、それによっていつわりは燃やされ、また碎かれる。

4. 神のことばを盗み、夢を語り、民を惑わせる者 (30～32節)

- (1) にせ預言者は自らの夢を神の啓示と主張する。
- (2) にせ預言者は、真の預言者のことばを聞き、それを盗んで語る。
- (3) 彼らはまた自らの舌を使って、偽りの預言を主からのものとして語る。
- (4) 彼らは、偽りと自慢話で、民を惑わす。

III 主の重荷として捨てられる民 (33～40節)

1. 「主の重荷」とは ～原語から見る言葉遊び

- (1) ヘブル語「マッサー」の意味は、「宣告」もしくは「重荷」
*語呂合わせを入れることで、内容が重要であり、聞く人々に印象付ける効果。

2. にせ預言者たちへの対処

- (1) 人々（民、預言者、祭司）からエレミヤへ質問：「主のマッサー（宣告）は何か」
*主のさばきばかりを語るエレミヤを揶揄した質問
- (2) エレミヤの答え
*「あなたがたこそ、主のマッサー（重荷）だ。あなたがたがマッサー（重荷）になったので、主はあなたがたをお捨てになる」

3. にせ預言者たちへの警告

- (1) 「主の宣告」という定型句を預言してはならない。
①その代わりに、「主は何と答えられたか。主は何と語られたか」と言え。
②「主は何と答えられたか」と聞かれたら、にせ預言者たちは沈黙せよ。
③彼らの預言が偽物であることが明らかになったから
- (2) 「主の宣告」と言い続けるなら、主の厳しいさばきが、彼らと民の上を下る。

◆ まとめ：神に従い、委ねる者へ「神の赦しを得よ」

1. 神の「重荷」となることの悲劇：罪人に用意された滅びの現実
2. 神に自らの「重荷」を委ねよ：死後の問題、自らの内にある罪悪感・・・
①キリストへの信頼（信仰）によって、神は重荷を負ってくださる
②神の赦しを得よ 詩55：22、68：19、マタ11：28